

# 2021年3月7日に爆発事故があった バタ市の環境改善支援



**国名：**赤道ギニア

**プロジェクト名：**2021年3月7日に爆発事故があったバタ市の環境改善支援

**実施期間：**2022年3月～2023年3月

**パートナーシップ：**日本政府、国際協力機構（JICA）、赤道ギニア外務・協力省、内務・地方自治体省、農業・畜産・森林・環境省、赤道ギニア国営リサイクル会社 SL、保健・社会福祉省、バタ市役所

**予算：**69万5,343.26米ドル

## 開発課題

2021年3月7日、赤道ギニアで最も人口の多い都市であるバタ市（人口30万9,345人）は、ンコアントマン近郊の軍の兵舎で発生した一連の爆発に揺れました。この事件によって100人以上が死亡、612人が負傷したほか、市内の廃棄物処理センター（WTC）などでかなりの物的損害が生じました。結果として、政府は国連アフリカ平和軍縮地域センター（UNREC）に支援を要請しました。UNRECは、国連災害評価調整チーム（UNDAC）と共にフィールド・ミッションを実施し、国家当局に対して実行可能な提言を浮き彫りにしました。これを受けて政府は、将来の同様の事故を防止することを目的とした提言を実施すると約束しました。

WTCは2014年に政府によって建設され、稼働時には、廃棄物の種類別や、環境に責任のある活動による廃棄物の一部リサイクル、埋立地の活用という業務を担いました。市内唯一のWTCが稼働しなくなったことで、現在企業や市民が出すものも含め、爆発で発生したすべての廃棄物が、適切な処理を受けずにそのまま埋立地へ運ばれることになりました。

さらに、現行の廃棄物政策には、廃棄物管理の慣行に関して多くの抜け穴があります。例えば、埋立地に運ばなければならない廃棄物の分類を含めて、製品のライフサイクルや廃棄物の発生防止、リサイクルの促進といった主要な関心事項にどのように対処するのかが明確ではありません。

## 目的

このプロジェクトには以下4つの目的があります。

- バタ市の廃棄物処理センターを復旧すること
- 焦点を絞った環境ガイドラインの策定と環境ガバナンスの改善を通じて、より良い環境管理を推進すること
- 環境・廃棄物管理の慣行にかかわる主要部門（市役所、内務省、環境省、保健省、地域団体など）の研修・啓発を行うこと
- 環境管理のベストプラクティスについて住民全般の啓発や意識向上を図ること

## プロジェクトの成果

**成果1：**廃棄物処理センターを復旧すること

**成果2：**バタ市の環境リサイクルの評価と策定を可能にすること

**成果3：**環境・廃棄物管理関連の問題にかかわる主要なステークホルダー（市役所、内務省、環境省、保健省、地域団体など）全体の廃棄物管理に関する知識とスキルを強化すること

**成果4：**環境管理のベストプラクティスについてバタの地元コミュニティの啓発を行うこと

このプロジェクトでは、固形廃棄物管理を統括する事業体に2つの重要な管理ツール（リサイクルガイドラインとコミュニケーション戦略）が提供されるほか、関係部門の約150人のステークホルダーが、地元コミュニティの100人を含め、環境と廃棄物管理の問題について研修を受けます。

## SDGsへの貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標1、3、5、6、8、11、13、14、15および17に貢献します。

